

2020年7月31日

(ご参考)

マツダ株式会社
2021年3月期 第1四半期 決算発表
主な質疑応答

1. 第1四半期実績を総括してほしい。

2021年3月期第1四半期のグローバル販売台数は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う急速な需要縮小により対前年31%減の24万4千台となりました。3月中旬以降、ロックダウンや外出規制に伴う経済活動の停滞がグローバルに波及し、中国を除く主要市場で販売台数が減少しました。

連結売上高は対前年56%減の3,767億円、営業損失は453億円となりました。固定販促費や諸経費の効率化、品質向上による関連費用の抑制などによる改善があったものの、出荷台数が減少したことなどにより、対前年523億円の減益となりました。また、操業停止による生産ロス205億円を特別損失に計上したことなどにより親会社株主に帰属する当期純損失は667億円となりました。

2. コロナ禍に対し取り組んできたことについて説明してほしい。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴う販売店の営業停止や急激な需要縮小による在庫増を受け、生産調整を週次で実施し、すべてのパイプライン上の在庫量のコントロールを強化しました。緊急支出抑制を実施するとともに、販売店の営業再開や需要回復に合わせた販売加速を進め、キャッシュフロー改善に取り組みました。

また、6月末までに2,900億円の資金調達を実行し、手元流動性を確保しました。サプライヤーの皆さまとも、引き続き、雇用維持や資金繰りに関する協議を継続的に行っております。

3. 通期見通しについて説明してほしい。

2021年3月期通期の計画は、不透明な状況ではありますが、自動車需要は徐々に回復することを前提として置いております。グローバル販売台数は、対前年8%減の130万台、中国を除く市場では対前年14%の減少となる見通しです。四半期別の前年比では、第1四半期は3割減となりましたが、第2四半期は1割減、第3四半期は若干のマイナスで、第4四半期は前年越えを目指します。

通期の連結売上高は対前年17%減の2兆8,500億円、営業損失は400億円の見通しです。広告宣伝費、諸経費、研究開発費の効率化による費用の抑制や、品質関連費用の減少など、固定費の改善に取り組みます。各市場での需要回復動向をしっかり捉え、着実な販売回復を図るとともに、固定費削減に徹底して取り組むことで利益水準は徐々に回復、下期に黒字化を目指します。コロナ禍がさらに大きな経営影響を及ぼす場合には、柔軟な対応を取りつつ全力で取り組んでまいります。

以上